

英音法

No.

008

「形容詞＋名詞」の読み方

INSTRUCTION

○ 次の「形容詞＋名詞」のフレーズをアクセントに注意して読んでみましょう。
「第1」「第2」「弱」の3レベルのアクセントを意識して読んでみてください。



POINT

▶ 「形容詞＋名詞」のアクセント



例題

008

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1 fresh air | 新鮮な空気 |
| 2 deep snow | 深く積もった雪 |
| 3 sweet wine | 甘口のワイン |
| 4 cold milk | 冷たいミルク |
| 5 a green house | 緑色の家 |
| 6 an old church | 古い教会 |
| 7 a dark room | 暗い部屋 |
| 8 a cheap hotel | 安いホテル |
| 9 an expensive computer | 高級なパソコン |
| 10 bright stars | 輝く星 |
| 11 beautiful photos | 美しい写真 |

強弱のポイント

- | | |
|---------|-----|
| 1 fresh | AIR |
| ② | ① |

2 deep

第2

②

3 sweet

第2

②

4 cold

第2

②

5 a

弱

•

6 an

弱

•

7 a

弱

•

8 a

弱

•

SNOW

第1

①

WINE

第1

①

MILK

第1

①

green

第2

②

old

第2

②

dark

第2

②

cheap

第2

②

*そろそろ慣れてきましたか？音法9以降は「弱」アクセントは「弱」という文字で示しません。

9 an

•

expensive

第2

• ② •

comPUTer

第1

• ① •

10 bright

第2

②

STARS

第1

①

11 beautiful

第2

② • •

PHOTOS

第1

① •

英音法

No.

009

「分詞＋名詞」の読み方

音法008の解説

「形容詞＋名詞」では「名詞」の方がより目立って読まれます。形容詞も名詞も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「名詞」の方が順番的に後に来ているため、句末原則を適用して名詞を「第1アクセント＝核」として読みます。



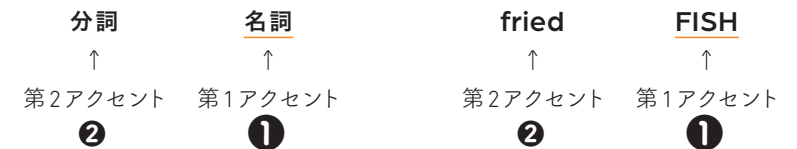
「形容詞＋名詞」は本書では「第2アクセント」＋「第1アクセント」として扱いますが、「第1アクセント」＋「第1アクセント」と捉える辞書もあります。どちらの考え方をしても、句末原則により、後ろの「名詞」の方が「形容詞」よりも目立って聞こえるのは変わらないため、本書ではより分かりやすいと思われる「第2アクセント」＋「第1アクセント」という考え方を採用します。ここから先も、より目立って聞こえる箇所を「第1アクセント」、それよりもいっくら卓立の度合い（目立ち度合い）が低くなる箇所は「第2アクセント」と呼んでいきます。

INSTRUCTION

○ 次の「分詞＋名詞」のフレーズをアクセントに注意して読んでみましょう。「第1」「第2」「弱」の3レベルのアクセントを意識して読んでみてください。

POINT

▶ 「分詞＋名詞」のアクセント



例題

▶ 009

- | | |
|----------------------|-------------|
| 1 fried fish | 揚げた魚（魚のフライ） |
| 2 broken glass | 割れたガラス |
| 3 stolen bikes | 盗まれた自転車 |
| 4 a frightened child | おびえた子ども |
| 5 a recorded message | 録音されたメッセージ |
| 6 melting snow | 溶けかかった雪 |
| 7 sitting bears | 座っているクマ |
| 8 barking dogs | 吠えている犬 |
| 9 a dancing girl | 踊っている少女 |
| 10 a sleeping baby | 眠っている赤ちゃん |

強弱のポイント

2 broken GLASS
② • ①

3 stolen BIKES
② • ①

英音法

No.

010

「副詞＋形容詞」の読み方

INSTRUCTION

- 次の「副詞＋形容詞」のフレーズをアクセントに注意して読んでみましょう。
「第1」「第2」「弱」の3レベルのアクセントを意識して読んでみてください。

POINT

- ▶ 「副詞＋形容詞」のアクセント

副詞	形容詞	so	CUTE
↑	↑	↑	↑
第2アクセント	第1アクセント	第2アクセント	第1アクセント
2	1	2	1

例題

010

1 so cute	とてもかわいい
2 very strong	とても強い
3 pretty heavy	かなり重い
4 really difficult	本当に難しい
5 widely accepted	広く受け入れられている
6 highly addictive	かなり中毒性のある
7 deeply emotional	非常に感情的な
8 totally impossible	全く不可能な
9 mentally demanding	精神的にきつい

強弱のポイント

2 very	STRONG
2	1
3 pretty	HEAVY
2	1

4 a frightened CHILD

• 2 • 1

5 a recorded MESsage

• • 2 • 1 •

6 melting SNOW

2 • 1

7 sitting BEARS

2 • 1

8 barking DOGS

2 • 1

9 a dancing GIRL

• 2 • 1

10 a sleeping BAby

• 2 • 1 •

音法9の解説

「分詞＋名詞」では「名詞」の方がより目立って読まれます。分詞も名詞も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「名詞」の方が順番的に後に来ているため、句末原則を適用して名詞を「第1アクセント＝核」として読みます。



「分詞」とは文法的に「～している」「～された」などを意味し、「形容詞」的な働きをするものです。このことを考えれば、「分詞＋名詞」は先ほどの「形容詞＋名詞」のパターンと同じとも言えます。読む練習をするとき、「分詞」が形容詞的な働きをしていることも感じ取りましょう。

英音法

No.

011

「動詞＋副詞」の読み方

4 really DIFficult

② (●) ● ① ● ●

* reallyは最近のアメリカ英語では3音節 /'ri:əli/ でなく、/ri:li/ と2音節で発音されることが主流になってきています。

5 widely acCEPTed

② ● ● ① ● ●

6 highly adDICTive

② ● ● ① ● ●

7 deeply eMOtional

② ● ● ① ● ● ●

8 totally imPOSSible

② ● ● ● ① ● ● ●

9 mentally deMANding

② ● ● ● ① ● ● ●

音法10の解説

「副詞＋形容詞」では「**形容詞**」の方がより目立って読まれます。副詞も形容詞も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「**形容詞**」の方が**順番的に後**に来ているため、句末原則を適用して形容詞を「第1アクセント＝核」として読みます。



INSTRUCTION

○ 次の「動詞＋副詞」のフレーズをアクセントに注意して読んでみましょう。「第1」「第2」「弱」の3レベルのアクセントを意識して読んでみてください。



POINT

▶ 「動詞＋副詞」のアクセント

動詞	副詞	sleep	<u>WELL</u>
↑	↑	↑	↑
第2アクセント	第1アクセント	第2アクセント	第1アクセント
②	①	②	①

例題

C 011

1 sleep well	よく眠る
2 run fast	速く走る
3 jump high	高く跳ぶ
4 stay long	長くとどまる
5 work hard	一生懸命働く
6 speak gently	穏やかに話す
7 wait patiently	辛抱強く待つ
8 dance beautifully	見事に踊る
9 perform professionally	プロとして演じる

強弱のポイント

2 run FAST

② ①

3 jump HIGH

② ①

英音法

No.

012

「動詞＋名詞」と 「副詞＋副詞」の読み方

4 stay LONG
② ①

5 work HARD
② ①

6 speak GENTly
② ① •

7 wait PAtiently
② ① • •

8 dance BEAUtifully
② ① • • •

9 perform proFESsionally
• ② • ① • • •

音法11の解説



「動詞＋副詞」では「副詞」の方がより目立って読まれます。動詞も副詞も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「副詞」の方が順番的に後に来ているため、句末原則を適用して副詞を「第1アクセント＝核」として読みます。

このセクションでは「自動詞の動詞＋副詞」のパターンを練習しています。その他の動詞と副詞の組み合わせのパターンは「句動詞の読み方」のセクションで詳しく扱います。

INSTRUCTION

○ 次の「動詞＋名詞」や「副詞＋副詞」のフレーズをアクセントに注意して読んでみましょう。「第1」「第2」「弱」の3レベルのアクセントを意識して読んでみてください。



POINT

▶ 「動詞＋名詞」のアクセント

動詞	名詞
↑	↑
第2アクセント	第1アクセント
②	①

drink	MILK
↑	↑
第2アクセント	第1アクセント
②	①

▶ 「副詞1＋副詞2」のアクセント

副詞1	副詞2
↑	↑
第2アクセント	第1アクセント
②	①

too	HARD
↑	↑
第2アクセント	第1アクセント
②	①

例題

012

- 1 drink milk
- 2 eat rice
- 3 spread butter
- 4 raise awareness
- 5 too hard
- 6 so slowly
- 7 very carefully
- 8 pretty much

ミルクを飲む
米を食べる
バターを塗る
意識を高める
あまりにも一生懸命に
あまりにもゆっくりと
とても慎重に
ほとんど、だいたい

* 会話でよく使われる成句化されている表現です。

- 9 really beautifully

本当に見事に

強弱のポイント

- 2 eat RICE
② ①
- 3 spread BUTter
② ① •
- 4 raise aWAREness
② • ① •
- 5 too hard
② ①
- 6 so SLOWly
② ① •
- 7 very CAREfully
② • ① ••
- 8 pretty MUCH
② • ①
- 9 really BEAUtifully
②(•) • ① •••

音法12の解説

「動詞＋名詞」では「名詞」の方がより目立って読まれます。動詞も名詞も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「名詞」の方が順番的に後に来ているため、句末原則を適用して名詞を「第1アクセント＝核」として読みます。

「副詞1＋副詞2」では「副詞2」の方がより目立って読まれます。副詞1も副詞2も「内容語」でどちらも強く読まれますが、「副詞2」の方が順番的に後に来ているため、句末原則を適用して副詞2を「第1アクセント＝核」として読みます。

句動詞のアクセント

句動詞の全体像



stand outは「目立つ、際立つ」という意味ですが、standという「動詞」と、outという「副詞」が結びついてできています。このように、基本的な動詞が副詞や前置詞などと結びつき、1つの動詞のような意味を持つものを「句動詞」(phrasal verb)と言います。「群動詞」(group verb)と呼ばれることもあります、本書では「句動詞」と呼びます。

句動詞は日常のあらゆる場面で非常によく使われる動詞で、句動詞なしにスピーキング、特に会話表現を語ることはできません。母語話者は句動詞を好んで使うものの、学習者は使用を避ける傾向があるとされており、中田達也著『英語は決まり文句が8割 今日から役立つ「定型表現」学習法』では、句動詞がない言語を母語とする学習者（日本語母語話者も含む）の多くは句動詞を苦手としていることを指摘しています。

また、同書では母語話者が句動詞を好んで使う傾向について、一般的なテキストでは、約150語に1回の割合で句動詞が使用されているという推計があることを紹介しています。平均的な英語書籍は1ページあたり300語前後であるため、1ページに句動詞が2回出てくる計算です。ちなみに、英語の句動詞は非常に数が多く、その数は8,000に迫るという説もあるそうです。

句動詞は、このように非常に重要なのですが、実は使い方が複雑で、アクセントの観点からも注意を要する項目も少なくありません。本書では、無理なく理解できるように句動詞を以下のように4つのパターンに分類し、それぞれのパターンに名前を付けたいと思います。

句動詞の4つのパターン

- パターン① 「stand out型」
- パターン② 「put off型」
- パターン③ 「come up with型」
- パターン④ 「look at型」